



具体的な目標を持つ

昨日のU田先生の進路講演に関する感想を2つ挙げてみよう。

*

▼国がどのような学校に注目しているかは、国から学校への予算額に関わるため、これらも考慮して進路を考えようと思った。将来は心臓外科・循環系・脳外科などを専門とし、また、ERの経験も積みたいと思っているため、海外（米・独など）への留学を大学在学中か後期の研修でしようと思った。そのためにも、国際化に力を入れている医科歯科を目指そうと思う。そこは、センターの割合は約4割で、2次（記述式）の比重が大きいから、英数物化の2次対策を、防衛医大（10月下旬）までにある程度完成させたい。本格的なセンター試験対策は11月から始め、後期（信州大など）の合格可能性も上げておくことで、余裕を持って前期試験を受けられるようにしたい。そのためにも、2次試験対策をできるだけ早めに終わらせようと思う。国語・地理は、学校の予習復習をしっかりとやって、最小限の努力で最大限の結果を出せるようにしたい。これらを全て実現するためには、時間を上手に使うことが重要であると思う。

▼自分には残された時間があまりないんだなあと思った。先生の話を知っているうちに、あれもできていない、これもできていないという点が見つかってしまい、不安になっていった。そもそも自分のこれからのビジョンというものがしっかりとしていないので、何も分からないという方が正確なのかも知れない。自分の遅れを取り戻すためにも、短い時間を利用して充実した一年にしたい。

*

同じ25R男子の感想だが、一読して大きな差があることが分かるだろう。前者は、自分のやりたいことをしっかりと見定めている。だから、それを実現させるための大学・学部を決めることができ、さらに、その大学の入試に対する具体的情報から、これからの大まかな計画までを見通すことができているのである。今日の話の中で「大学の国際化」という部分に注目することができたのも、こういう下地があるからこそである。いつ留学するのかとか、留学制度のしっかりした大学を目指そうとか、具体的に自分の進路を見直すことにも結びついているのである。

一方、後者は、まだ自分の進路がはっきりしていないようだ。だから、同じ話を聞いても、「短い時間を利用して…」といった感想を持つ段階に留まっている。もちろん、それを生かしてこれからの勉強法を改善するように努力し、それが一年後の合格に結びつくなれば十分に効果があったと言えるわけだが、それにしても二つの感想にレベルの差があることは明かだろう。

大切なことは、「具体的な目標を持つ」ということなのである。具体的であるから、人の話を聞いた時にも、それを自分の具体的な目標に合わせて、有効に受け止めることができるようになるのである。

今の段階では、まだ前者のように具体的な目標を見定めることができている人は少数派だ。だからこそ、これから4月までの間に、色々な情報にアクセスしながら、具体的な目標をもってほしいものだと思う。それがイイスタートを切る第一歩となるのである。